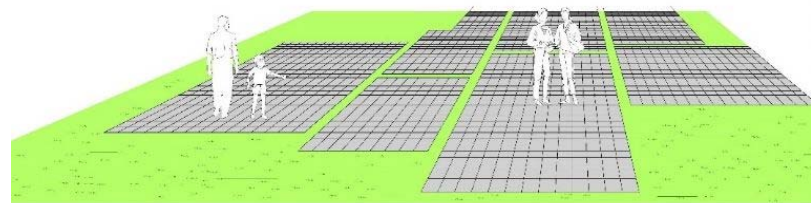


桂城公園修景整備基本計画について

“ 歴史と未来が交差する水と緑の城址公園 ” を目指して

整備スケジュール(案)

令和3年度 修景整備基本計画策定(堀・土塁の現況測量を含む)
 令和4年度 堀・土塁修景実施設計、工作物撤去等工事
 令和5年度～ 堀・土塁修景整備工事、その他施設の修景工事
 ※体育館及び武道場跡地(令和6年度まで来客・公用車臨時駐車場)
 臨時駐車場が不要となった時点で、公園区域を拡大し、整備に着手



城址のしつらえのイメージ
 景観を考慮し、芝生との色や質を変え、平面上でしつらえを整える。また、新庁舎からの眺望により、城址の雰囲気を感じていただくとともに、認識の向上を目指す。



新庁舎から見た城址
 新庁舎の高さと、北側斜面の高さにより遠くの山並みや大館盆地を見渡せる。



手前は、お堀にかかる木橋
 奥は、旧大館城に建つ大館男子尋常小学校
 (大正14年撮影)



木橋のイメージ
 木デッキ園路を新設し、大館城に入城するしつらえを整える。



イベント広場のイメージ
 野外ステージ撤去にあわせて、新庁舎や親水広場と一体となる活動拠点を整える。



シンボルロードのイメージ
 大館八幡神社～本丸跡～三ノ丸につながる軸を整える。

桂城公園修景整備基本計画について（修景整備方針・ゾーニングの設定）

1. 城址公園の修景整備方針

大館城本丸跡の「桂城公園」は、本格的な町割りを行って形成された城下町・大館の中心であり、歴史的風致維持向上を目指す本市における中核となる場所です。特に、堀と土塁は、当時の面影をそのまま見ることができる歴史的資産です。

また、城址周辺には大館八幡神社、遍照院、桜櫓館、愛宕神社など歴史的建造物や、鉤型道路など、かつての町割りの面影が現存しています。

そこで、桂城公園について歴史的建造物を巡る街歩きの見掛けに位置づけ、新庁舎や桜櫓館との調和、景観の一体化を図り、城址公園にふさわしい景観形成を目指します。

2. 城址公園に相応しい修景整備の7つの方針（案）

- (1) (仮称)「歴史と未来が交差する水と緑の城址公園」**
桂城公園（大館城本丸跡）は、市民にとって拠り所であり原風景です。歴史や文化を後世にしっかりと継承・発信できる場所となるよう、修景整備を行います。
- (2) 各エリアの使い方を想定したゾーニングの設定**
桂城公園には、歴史、文化、自然、景観等の魅力的な資源があります。既往のエリアを踏まえ、最大限に活用できる場所となるよう、使い方を想定したゾーニングを設定します。
- (3) シンボルロードの整備**
桂城公園は、八幡神社から愛宕神社に至る歴史的シンボル軸の中核です。園内でもその軸線を意識できるよう、シンボルロードを整備します。
- (4) 城門跡を意識した出入口部分の創出**
桂城公園へは現在5か所の出入口があります。うち3か所は城門跡と重なっていることから、歴史的な意味や位置づけを理解しながら、ゲート空間に相応しい場所を創出します。
- (5) 親水性向上を目指した堀や土塁の修景整備**
既存の堀と土塁は、当時の面影をそのまま残し、歴史的価値だけでなく、親水空間としても期待されます。親水性の向上を目指した堀と土塁の修景整備を行います。
- (6) サクラの名勝として保全**
サクラの名勝である桂城公園を、後世において桜並木を楽しめる場所として保全・継承します。なお、国道7号や周辺からの見られ方にも十分に配慮するものとします。
- (7) 北側への眺望（視点場）の確保**
大館盆地の舌状に突き出た段丘上にある桂城公園は、津軽方面を一望できる環境にあり、今も眺望を楽しめる視点場となっており、この機能を後世に継承していきます。

3. 使い方を想定したゾーニングの設定（案）

A. 歴史や文化を感じられるシロヤナギのゾーン

樹齢200年のシロヤナギがそびえるこのエリアは、パワースポットとを感じる方もいます。城址であったイメージを付加しながら、歴史と文化を後世に伝える場所とします。



B. 季節を感じながら語らい歩けるサクラ並木と眺望のゾーン

平城でありながら北側を一望できる視点場で、サクラの名勝となるサクラ並木が残るこのエリアは、語らいながらゆっくりと歩きたい場所を目指します。



C. 子どもが走り回りたくなる賑わいのゾーン

体育館や武道館があったこのエリアは、新機能の導入が期待されます。秋田犬本部展覧会や子どもが走り回りたくなる賑わいの場所を目指します。



D. 公園通路を兼ねた歩行者空間シンボルロードの整備



E. 庁舎や親水広場と一体的に活用されるゾーン

桂城公園との一体的な活用を目指して整備されたこのエリアは、親水広場で時間を過ごしたり、多様な利用や活動による賑わいの拠点となる場所を目指します。



F. いにしえのを感じる堀と土塁のゾーン

いにしえの面影を残す堀と土塁が現存するこのエリアは、新庁舎整備の時から緑と水の親水空間としてあり方が期待されています。歴史を感じながら回遊・滞留できる場所を目指します。



4. 整備スケジュール

令和3年度	修景整備基本計画策定 (堀・土塁の現況測量を含む)
令和4年度	堀・土塁修景実施設計、工作物撤去等工事
令和5年度～	その他施設の修景工事

※体育館及び武道場跡地
(令和6年度まで来客・公用車臨時駐車場)
臨時駐車場が不要となった時点で、公園区域を拡大後、令和7年度以降、整備に着手予定。

桂城公園修景整備基本計画について（現状と修景整備に関する主な視点）



①三ノ丸方面との繋がり、歴史まちづくりに対応しい出入口のしつらえ



②野外ステージは、城址に相応しい施設なのか・活用を踏まえ検討



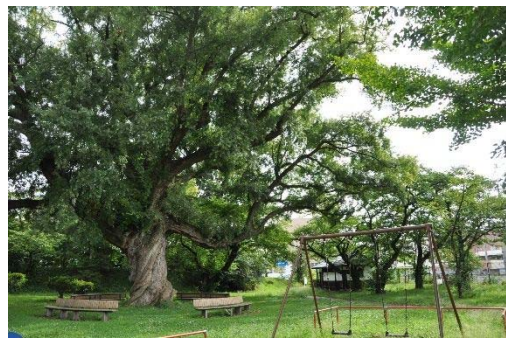
③公園内の回遊性に配慮した園路設定、東屋、トイレ、石碑等の改善



④北側への眺望の確保、活かし方北側法面のしつらえ



⑤桂城公園区域拡大予定の旧体育館・武道館跡地の活かし方



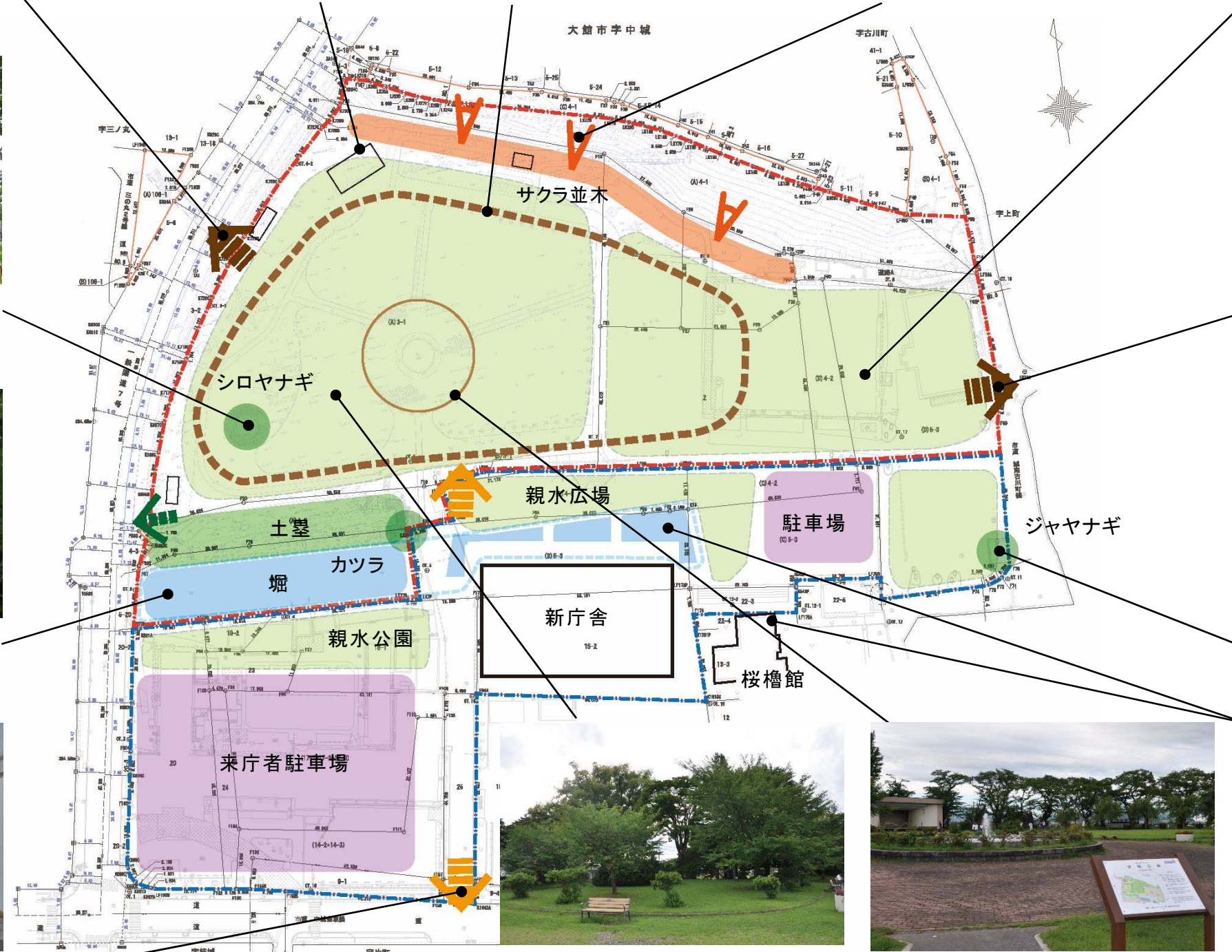
⑬パワースポットとなるシロヤナギ公園周辺からのアイストップ



⑫新庁舎親水広場一体となった、堀の再生、土塁の修景



⑪主要駐車場から公園への、主要動線の作り方



⑥上町方面との繋がり、歴史まちづくりに対応しい出入口のしつらえ



⑦地域の方が守り続けるジャヤナギの活かし方



⑩公園内の緑化。様々な樹種、樹形、死角の解消等への対応



⑨城址跡地の噴水は、意味やランニングコスト等を踏まえたあり方検討



⑧新庁舎、桜櫓館との調和。動線の確保

